



平成30年6月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年5月10日

上場会社名 トラストホールディングス株式会社
 コード番号 3286 URL <http://www.trust-hd.co.jp>

上場取引所 東 福

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 喜久田 匡宏

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 矢羽田 弘

TEL 092-437-8944

四半期報告書提出予定日 平成30年5月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年6月期第3四半期の連結業績(平成29年7月1日～平成30年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月期第3四半期	10,470	28.6	513	24.7	403	10.3	91	70.6
29年6月期第3四半期	14,665	47.9	681	744.4	449		312	

(注) 包括利益 30年6月期第3四半期 90百万円 (71.3%) 29年6月期第3四半期 315百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年6月期第3四半期	19.16	
29年6月期第3四半期	65.21	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年6月期第3四半期	11,407	616	5.4	128.74
29年6月期	12,917	606	4.7	126.74

(参考) 自己資本 30年6月期第3四半期 616百万円 29年6月期 606百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年6月期		8.20		8.20	16.40
30年6月期		8.20			
30年6月期(予想)				8.20	16.40

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年6月期の連結業績予想(平成29年7月1日～平成30年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,500	17.5	750	20.3	600	69.9	150	245.1	31.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年6月期3Q	5,204,500 株	29年6月期	5,204,500 株
期末自己株式数	30年6月期3Q	412,685 株	29年6月期	416,485 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年6月期3Q	4,789,691 株	29年6月期3Q	4,785,042 株

(注) 期末自己株式数は、株式付与E S O P信託口が所有する当社株式が含まれております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっては、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による経済政策や大胆な金融政策などを背景として、企業業績の向上や雇用環境の改善など、着実に景気回復の兆しが見られてきております。

このような状況の中、当社グループは駐車場事業の収益力向上、不動産事業における新築マンション及び駐車場小口化商品「トラストパートナーズ」の販売強化の他、各種新規事業の収益改善等に注力してまいりました。

また、平成29年12月28日に公表いたしました販売用不動産2物件（福岡市博多区及び福岡市中央区）の引渡しを完了いたしました。

なお、アミューズメント事業において創作和食店「彩然広島LECT店（広島市西区）」を平成30年1月末にて閉鎖、退店したことにより固定資産減損損失及び解約違約金等を特別損失に計上したほか、ウォーター事業において水素水ディスペンサーの販売を中止し、在庫処分等を行ったことにより、たな卸資産処分損を特別損失に計上しております。

以上の結果、売上高は10,470,015千円（前年同期比28.6%減）、営業利益513,127千円（前年同期比24.7%減）、経常利益403,654千円（前年同期比10.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は91,783千円（前年同期比70.6%減）となりました。

セグメント別の業績は次の通りであります。

①駐車場事業

収益性を重視した新規駐車場開発及びタイムリーな料金改定等の既存駐車場活性化を引き続き実施してまいりました。

また、平成29年4月に「トラストパートナーズ第5号（札幌市、北九州市、福岡市、鹿児島市の4物件を1パッケージ化）」の完売に伴い、組成した4物件の借上賃料計上を同月より開始しております。

以上の結果、売上高は5,092,486千円（前年同期比2.2%増）、営業利益256,978千円（同46.3%減）となりました。

なお、当第3四半期連結会計期間末の駐車場数は815ヶ所（前年同期より53ヶ所増、前連結会計年度末より55ヶ所増）、車室数は32,201車室（前年同期より1,274車室増、前連結会計年度末より811車室増）となっております。

②不動産事業

マンション、戸建住宅等の販売等部門につきましては、当第3四半期連結累計期間においては、販売用不動産の売却に加え、既竣工物件である「トラストネクサス新棟野Ⅱ（山口県下関市）」20戸の引渡しを実施した結果、売上高3,196,621千円（前年同期比41.3%増）、営業利益362,506千円（前年同期比603.8%増）となりました。

なお、当連結会計年度におきましては、新築マンション2棟「トラスト山里ヒルズ（沖縄県沖縄市、36戸、平成30年4月）」、「トラストネクサス速玉パークレジデンス（山口県周南市、51戸、平成30年5月）」の竣工を予定しております。

また、不動産特定共同事業法に基づく駐車場小口化商品の販売部門につきましては、前年同期に大型物件「トラストパートナーズ第5号」の売上計上した反動もあり、減収減益とはなりますが、販売は堅調に推移、「トラストパートナーズ第6号（福岡市博多区）」、「トラストパートナーズ第7号（宮崎県宮崎市）」、「トラストパートナーズ第8号（福岡県糟屋郡新宮町）」及び「トラストパートナーズ第9号（山口県山口市）」が完売した結果、売上高714,441千円（前年同期比86.4%減）、営業利益138,085千円（前年同期比68.7%減）となりました。

以上の結果、不動産事業の売上高は3,911,062千円（前年同期比47.8%減）、営業利益500,591千円（前年同期比1.7%増）となりました。

③ウォーター事業

水素水の販売を中心として行うウォーター事業におきましては、前連結会計年度より広告戦略を転換、より効果的な広告手法を模索してまいりましたが、水素水全般に対するネガティブな報道の影響もあり、定期顧客数を伸ばさせることができませんでした。このような状況のなか、平成29年11月よりパウチタイプの天然発酵エキスを配合した水素水「糸島の健酵」の販売を開始する等、新規顧客の獲得を図ってまいりました。

以上の結果、売上高416,047千円（前年同期比57.4%減）、営業損失337千円（前年同期は110,805千円の営業損失）となりました。

④アミューズメント事業

アミューズメント事業につきましては、温浴施設「那珂川清滝（福岡県筑紫郡那珂川町）」、「和楽の湯 下関せいらゆう（山口県下関市）」及びゴルフ練習場「カスターネット倶楽部水巻（福岡県遠賀郡水巻町）」の既存施設

におきましては、来場者数が伸び悩む中、各種サービス内容の見直し等を実施、収益の確保に注力してまいりました。

また、平成29年7月にオープンいたしました「彩然広島LECT店」につきましては、来店者数が計画を大きく下回り、収益改善の目途が立たなかったことから、平成30年1月末をもって同店を閉鎖いたしました。

以上の結果、売上高555,259千円（前年同期比7.8%減）、営業損失61,878千円（前年同期は45,613千円の営業損失）となりました。

⑤メディカルサービス事業

メディカルサービス事業につきましては、「介護老人保健施設みやこ」及び「福岡信和病院」の賃貸収入等により概ね堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高141,113千円（前年同期比0.8%減）、営業利益18,486千円（前年同期比11.9%減）となりました。

⑥RV事業

RV事業につきましては、引き続き販売体制の構築に注力してまいりましたが、受注状況に改善の兆しが見え始めてはいるものの、当第3四半期連結累計期間においては、販売台数を伸ばすことができませんでした。

また、製造原価の低減に本格的に着手、生産工程の見直し及び材料費削減に取り組んでまいりました。

以上の結果、売上高165,093千円（前年同期比45.3%減）、営業損失144,565千円（前年同期は82,052千円の営業損失）となりました。

⑦その他事業

その他事業につきましては、警備事業等の既存事業の拡張に加え、新規事業の早期収益化に向けスキンケア商品「ミニチュール」の顧客拡大、エコ関連商品の販売等に注力してまいりました。

以上の結果、売上高188,951千円（前年同期比15.9%増）、営業損失77,240千円（前年同期は109,944千円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末と比較して989,099千円減少し、6,295,127千円となりました。主な増加要因は、現金及び預金の増加386,888千円であります。一方、主な減少要因は、不動産事業のマンション、戸建住宅等の販売等部門における既竣工物件の販売及び駐車場小口化商品「トラストパートナーズ第6号」の完売に伴う販売用不動産の減少823,298千円、仕掛販売用不動産の減少745,188千円であります。固定資産は、前連結会計年度末と比較して520,606千円減少し、5,112,709千円となりました。主な減少要因は、保有不動産の用途変更による土地の減少324,256千円、償却によるのれんの減少47,511千円であります。

この結果、総資産は11,407,836千円となり、前連結会計年度末に比べ、1,509,706千円減少しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末と比較して102,450千円減少し、5,363,137千円となりました。主な増加要因は、短期借入金の増加187,000千円及び1年内返済予定の長期借入金の増加141,241千円であります。一方、主な減少要因は、買掛金の減少321,414千円であります。固定負債は、前連結会計年度末と比較して1,417,344千円減少し、5,427,755千円となりました。主な減少要因は、長期借入金の減少1,407,016千円であります。

この結果、負債合計は10,790,893千円となり、前連結会計年度末に比べ1,519,794千円減少しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比較して10,088千円増加し、616,943千円となりました。主な増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上91,783千円であります。一方、主な減少要因は、配当金の支払81,662千円であります。

この結果、自己資本比率は5.4%（前連結会計年度末は4.7%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年6月期の通期の連結業績予想につきましては、平成30年2月9日に公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」における連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,195,513	1,582,402
受取手形及び売掛金	263,460	292,088
販売用不動産	1,047,373	224,075
仕掛販売用不動産	3,098,026	2,352,838
商品及び製品	164,020	142,901
原材料及び貯蔵品	63,771	105,486
仕掛品	20,961	47,827
その他	1,474,804	1,599,852
貸倒引当金	△43,706	△52,344
流動資産合計	7,284,227	6,295,127
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,389,348	2,306,243
土地	1,412,191	1,087,934
その他(純額)	712,722	706,461
有形固定資産合計	4,514,262	4,100,639
無形固定資産		
のれん	285,912	238,400
その他	98,363	71,228
無形固定資産合計	384,276	309,629
投資その他の資産		
その他	734,777	702,439
投資その他の資産合計	734,777	702,439
固定資産合計	5,633,316	5,112,709
資産合計	12,917,543	11,407,836

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	490,095	168,681
短期借入金	2,970,000	3,157,000
1年内返済予定の長期借入金	768,028	909,269
未払法人税等	69,381	89,883
ポイント引当金	24,712	20,936
賞与引当金	—	29,451
資産除去債務	4,330	17,330
返品調整引当金	380	238
受注損失引当金	1,046	—
その他	1,137,614	970,347
流動負債合計	5,465,588	5,363,137
固定負債		
長期借入金	6,078,911	4,671,895
株式給付引当金	10,149	9,957
退職給付に係る負債	43,679	48,980
資産除去債務	93,836	100,993
その他	618,523	595,928
固定負債合計	6,845,099	5,427,755
負債合計	12,310,687	10,790,893
純資産の部		
株主資本		
資本金	422,996	422,996
資本剰余金	224,086	224,086
利益剰余金	165,835	175,956
自己株式	△203,078	△201,861
株主資本合計	609,840	621,178
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△69	△1,336
為替換算調整勘定	△2,915	△2,899
その他の包括利益累計額合計	△2,985	△4,235
純資産合計	606,855	616,943
負債純資産合計	12,917,543	11,407,836

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成29年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成30年3月31日)
売上高	14,665,119	10,470,015
売上原価	11,695,662	8,275,146
売上総利益	2,969,457	2,194,869
販売費及び一般管理費	2,288,264	1,681,741
営業利益	681,193	513,127
営業外収益		
受取利息	875	2,070
受取配当金	730	147
受取解約違約金	1,068	2,312
投資有価証券売却益	2,309	2,425
受取保険料	1,349	9,385
その他	21,602	13,401
営業外収益合計	27,935	29,742
営業外費用		
支払利息	139,004	116,393
不動産特定共同事業分配金	98,561	—
投資有価証券売却損	1,395	—
その他	20,274	22,821
営業外費用合計	259,236	139,215
経常利益	449,892	403,654
特別利益		
固定資産売却益	163,057	1,568
保険解約返戻金	31,520	—
特別利益合計	194,577	1,568
特別損失		
減損損失	49,019	115,533
固定資産売却損	2,127	—
退店違約金等	—	12,936
たな卸資産減失損	16,500	—
たな卸資産処分損	—	37,721
特別損失合計	67,647	166,191
税金等調整前四半期純利益	576,822	239,031
法人税、住民税及び事業税	131,588	104,585
法人税等調整額	133,191	42,661
法人税等合計	264,779	147,247
四半期純利益	312,042	91,783
親会社株主に帰属する四半期純利益	312,042	91,783

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成29年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年7月1日 至 平成30年3月31日)
四半期純利益	312,042	91,783
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,667	△1,266
為替換算調整勘定	△424	16
その他の包括利益合計	3,242	△1,249
四半期包括利益	315,285	90,534
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	315,285	90,534
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成29年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						計
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	メディカルサービス事業	RV事業	
売上高							
外部顧客への売上高	4,982,700	7,496,738	976,698	602,157	142,197	301,548	14,502,040
セグメント間の内部売上高又は振替高	4,388	25,067	2,876	2,046	—	278	34,658
計	4,987,089	7,521,806	979,574	604,203	142,197	301,827	14,536,698
セグメント利益又は損失(△)	478,945	492,412	△110,805	△45,613	20,976	△82,052	753,862

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
外部顧客への売上高	163,079	14,665,119	—	14,665,119
セグメント間の内部売上高又は振替高	153,306	187,965	(187,965)	—
計	316,386	14,853,084	(187,965)	14,665,119
セグメント利益又は損失(△)	△109,944	643,918	37,275	681,193

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去325,326千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△287,978千円及び棚卸資産等の調整額△72千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「駐車場事業」セグメントにおいて、主に収益性が著しく低下した店舗設備の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては5,987千円であります。

「不動産等事業」セグメントにおいて、資産の用途変更に伴い、地質調査及び建築設計等に生じた費用の全額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては19,971千円であります。

「ウォーター事業」セグメントにおいて、当連結会計年度に予定しておりました新規事業の計画変更及び当該新規事業用の生産器具の大幅な仕様変更に伴い、その生産器具の製造に要した費用の全額を減損損失として計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては23,060千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成29年7月1日 至 平成30年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント						計
	駐車場事業	不動産等事業	ウォーター事業	アミューズメント事業	メディカルサービス事業	RV事業	
売上高							
外部顧客への売上高	5,092,486	3,911,062	416,047	555,259	141,113	165,093	10,281,064
セグメント間の内部売上高又は振替高	7,784	32,123	2,473	3,634	—	2,076	48,091
計	5,100,271	3,943,185	418,520	558,893	141,113	167,170	10,329,156
セグメント利益又は損失(△)	256,978	500,591	△337	△61,878	18,486	△144,565	569,275

	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
外部顧客への売上高	188,951	10,470,015	—	10,470,015
セグメント間の内部売上高又は振替高	152,780	200,871	(200,871)	—
計	341,731	10,670,887	(200,871)	10,470,015
セグメント利益又は損失(△)	△77,240	492,035	21,091	513,127

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告事業、警備事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去336,904千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△315,660千円及び棚卸資産等の調整額△152千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運営に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。